

令和3年度 事業報告

事業名	実施状況の概要
公益目的事業 国際交流・多文化共生の推進 (1) 地域の国際化に向けた情報の収集・提供・発信	ア 多言語情報の提供と発信 ア) ホームページの運営（県補助事業 1/2） 財団の情報を迅速に提供するとともに、地域における国際交流の情報交換や、在住の外国出身者が生活していく上で必要な生活情報の提供等を行うホームページ（日本語・英語・中国語・ベトナム語版）を運営した。新型コロナウイルス感染症に関する多言語特設ページを設け、随時情報の更新に努めたほか、今年度はホームページに医療・コミュニティ通訳派遣フォームを設置（R3.11～）し、利用者の利便性の向上に努めた。 訪問数 29,738（月平均 2,478） ← 前年度比 14.8%減 財団ホームページアドレス http://www.torisakyu.or.jp/ （事業報告附属明細書 P17 参照） イ) SNSによる情報発信（県補助事業 1/2） 在住外国人にダイレクトに有益な情報を伝える手段として公式SNS（Facebook とっとりニコニコ 英語/やさしい日本語版、中国語簡体字版、中国語繁体字版、ベトナム語版の4言語）を運営した。特に、コロナウイルス感染症関係、大雨や台風時等の防災情報をきめ細やかに配信することに留意した。 ＜フォロワー数 R4.3月末現在＞ 英語/やさしい日本語版 198（前年度比 183%増） 中国語簡体字版 43（前年度比 54%増） 中国語繁体字版 161（前年度比 13%増） ベトナム語版 1,118（前年度比 153%増） 計 1,520（前年度比 123%増） （事業報告附属明細書 P17 参照） ウ) 機関紙の発行（県補助事業 1/2） 財団の活動状況や、地域の国際交流事業等の情報を提供する機関紙「とっとり国際通信」第137～139号を発行（A4・一部カラー刷り 一部記事については英語・中国語・ベトナム語表記 各 2,000 部）。 イ 交流拠点の運営と関係機関との連携 ア) 本所・倉吉事務所・米子事務所の運営（県補助事業 10/10、一部県委託事業） 全県的な国際交流の推進のため、各地域の拠点となる施設として財団本所、倉吉事務所（鳥取県中部総合事務所別館内）、米子事務所（米子コンベンションセンター4 階）を設置・運営した。令和元年度より、県から外国人相談窓口業務の委託を受けるほか、各拠点では一般図書、日本語教材、視聴覚資料、海外新聞及び雑誌を購入し、来館者の閲覧や貸し出しに供したほか、毎月第二日曜日（14:00～16:00）に本所において、在留資格の変更等の手続きについて申請取次行政書士がボランティアで相談に応じる窓口を運営した。 （事業報告附属明細書 P18 参照）

(2) 地域の国際化につながる活動の推進と在住外国人トータルサポート事業	イ) 関係機関との連携（自主事業） i) 連絡調整 例年、県内に拠点を置く民間国際交流・協力関係者及び県・市町村担当者と、地域の国際交流の活性化のために連携して活動していくための意見交換（連絡会議）、県内の高等教育機関における外国人留学生の円滑な受入れと地域社会と連携した国際交流活動を図ることを目的とする鳥取県留学生交流推進会議については新型コロナウイルス感染症の影響により書面での情報共有とした。また中国・四国地区地域国際化協会連絡協議会のブロック会議については、オンラインによる会議形式で参加した。また、昨年度に続き中国5県の地域国際化協会事務局長会議を月1回開催し、コロナ禍における事業展開について意見交換・情報共有を行った。 ＜地域国際化協会連絡協議会との連携＞ ○中国・四国地区地域国際化協会連絡協議会（オンライン会議） 日時：令和3年12月1日（金）13:30～16:00 幹事：（公財）山口県国際交流協会 内容：(1)各協会の概況報告 (2)各協会提出議題協議 (3)研修会 「災害時多言語支援センターの設置・運営について～令和3年8月豪雨災害の事例から～」 講師（公財）佐賀県国際交流協会 北村 浩氏 ii) 地域連携等 市町教育委員会事務局及び小中学校等と連携し、外国にルーツを持つ児童生徒の日本語支援を実施した。（要請のあった小・中・高等学校（東部：12校16名、中部1校1名、西部3校3名）に日本語支援員と教材をコーディネート。） ア あんしん生活・コミュニケーション支援 ア) 国際交流コーディネーターの配置（県委託事業） 外国出身者の日常生活における言語及び文化の違いによる障壁をできるだけ低くするべく、英語圏、中国語圏、ベトナム出身（平成30年度倉吉事務所に配置、令和元年度は本所、米子事務所にも配置）の国際交流コーディネーターを配置し、面談や電話等により、さらにトリオフオン（三者通話機能）、TV会議システム等も活用して母国語で困りごと等の相談に応じるとともに、必要に応じて専門機関等への橋渡しを行った。（他の言語については多言語対応アプリを搭載したタブレットにより対応） また、ホームページやメールマガジン、機関紙といった情報ツールによる発信情報等の翻訳、国際理解を促す財団事業の企画、運営のほか学校や地域の要請に応じた国際理解講座の講師をつとめるなど地域の国際交流事業にも積極的に参画した。（英語圏出身1名、中国語圏出身2名、ベトナム出身2名） ＜配置状況＞ ○本所 英語対応 月曜日 13:00～17:30、木曜日 15:00～17:30 金曜日 14:30～17:30 中国語対応 火・木曜日 9:00～17:00 ベトナム語対応 火・水・金曜日 9:00～17:00
---	--

○倉吉事務所 中国語対応 水曜日 13:00～17:00
ベトナム語対応 金曜日 9:00～17:00
○米子事務所 中国語対応 水・木曜日 9:00～17:00
ベトナム語対応 月曜日 9:00～17:00

イ) 日本語クラスの運営 (県補助事業 3/4)

県内に在住するいろいろな立場・国籍の外国出身者が、日常生活に役立つ日本語を共に楽しく学べる場として、毎週水曜日または日曜日に専任講師とボランティアパートナーによるクラス形式の日本語教室を運営した。クラスに参加しにくい人などには、希望の日程にマンツーマンでボランティアが対応する個別学習を組み合わせ実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により第1期及び第2期とも途中の休講を余儀なくされ、開始後も予防対策を講じながら規模を縮小するなど配慮し実施した。また、運営に関わる講師及びボランティアの研修や意見交換の場を組み入れ、クラス運営の一体的な充実を図った。

なお、今後コロナ禍にあっても誰もが学習機会を得られるような体制や運営方法を検討するための「日本語クラスのあり方検討会」を設置し、生活者としての外国人に対する日本語支援の充実、持続可能な体制づくりについての方向性等を提言としてまとめた。その経過でオンラインクラスを試行的に実施し、成果を意見交換に反映させた。

<東部>

クラス運営

形式：基礎 (A)・初級 (B)・中級 (C)・漢字 (D) 子どもにほんごクラスの5クラス

期間：第1期 令和3年4月11日～7月25日の日曜日 全11回

第2期 令和3年10月31日～令和4年1月16日の日曜日 全10回

場所：財団本所 (子ども日本語クラス)

鳥取市高齢者福祉センター (基礎・初級・中級・漢字)

受講者数：第1期 101名、第2期 68名 (のべ人数)

研修会

ー第1期ー

日時：令和3年4月4日 (日) 13:00～15:00

場所：鳥取市高齢者福祉センター2階 第4会議室

内容：(1) 日本語クラスオリエンテーション

(2) 研修「クラス活動の実際」

講師 鳥取大学国際交流センター准教授 御館 久里恵氏

参加者数：ボランティアパートナー16名、クラス講師6名

ー第2期ー

日時：令和3年10月24日 (日) 13:30～15:30

場所：鳥取市民交流センター2階 多目的室3

内容：(1) 日本語クラスオリエンテーション

(2) 研修「日本語の熟達度と、熟達度に合わせた支援活動」

講師 鳥取大学国際交流センター准教授 御館 久里恵氏

参加者数：ボランティアパートナー12名、クラス講師5名

<中部>

クラス運営

形式：水曜日 初級、日曜日 基礎、初級 の3クラス

	期間：第1期 令和3年5月12日～7月28日の水曜日 全8回 令和3年5月9日～7月18日の日曜日 全6回 第2期 令和3年11月10日～12月15日の水曜日全6回 令和3年11月7日～12月19日の日曜日全6回 場所：水曜日 県中部総合事務所別館会議室 日曜日 県立倉吉体育文化会館会議室 受講者数：第1期 16名、第2期 20名（のべ人数） <u>研修会</u> 日時：令和3年4月21日（水）14:00～15:30 場所：県中部総合事務所別館会議室 内容：日本語クラスオリエンテーション 参加者数：ボランティアパートナー6名 <西部> <u>クラス運営</u> 形式：基礎・初級の2クラス 期間：第1期 令和3年4月18日～7月18日の日曜日 全8回 第2期 令和3年11月14日～12月19日の日曜日 全5回 場所：米子コンベンションセンター会議室 受講者数：第1期 47名、第2期 39名（のべ人数） <u>研修会</u> ー第1期ー 日時：令和3年4月11日（日）13:00～16:00 場所：米子コンベンションセンター会議室 内容：(1)日本語クラスオリエンテーション (2)研修「初級クラスでの学習の進め方について」 講師 日本語教師 井岸 昌世氏 (3)座談会 参加者数：ボランティアパートナー16名 ー第2期ー 日時：令和3年11月7日（日）13:30～15:30 場所：米子コンベンションセンター会議室 内容：(1)日本語クラスオリエンテーション (2)研修「日本語ボランティアの役割と活動の方法」 講師 日本語教師 井岸 昌世氏 参加者数：ボランティアパートナー14名 <個別学習> 東部12組、中部0組、西部1組 <u>日本語クラスのあり方検討会</u> (1)開催日等 *第1回は前年度に先行開催 第1回 令和3年3月15日（月） 県民ふれあい会館4階 中研修室（3） 第2回 令和3年7月23日（金・祝） オンライン会議 第3回 令和4年3月9日（水） オンライン会議 (2)構成員 座長 御館 久里恵氏 学識経験者（日本語教育・鳥取大学国際交流センター准教授） 委員 中東 靖恵氏 学識経験者（社会言語学・岡山大学大学院社会文化科学研究科
--	--

准教授)

委員 井岸 昌世氏 鳥取県国際交流財団日本語クラス（西部・基礎クラス）講師
委員 恩田 恵子氏 鳥取県国際交流財団日本語クラス（中部・初級クラス）講師
委員 関野 元氏 鳥取県国際交流財団日本語クラス（東部・子どもにほんごクラス）講師

オンラインクラス（テスト版）

（１）日時 令和４年２月６日（日）、１３日（日）、２０日（日）

基礎クラス ９：３０～１１：００（９０分）、初級クラス １１：１０～１２：４０（９０分）

（２）受講者 基礎クラス ５名（ラオス、フィリピン、インドネシア、オーストラリア、イタリア）、初級クラス ４名（ラオス、ベトナム２、イタリア）

（事業報告附属明細書 P19 参照）

ウ）医療・コミュニティ通訳ボランティアの派遣（県補助事業 3/4）

医療通訳ボランティア（要請に応え医療・保健機関等に派遣）及びコミュニティ通訳ボランティア（保育園や学校、福祉分野、在留資格相談など言葉の支援の要請が多様化している現状でのより具体的な支援として、外国出身者がより円滑な社会生活を行うため、また公的機関等での適切な制度説明や手続きを促すために必要な言葉の支援）を専門通訳ボランティア派遣として一体的に運営することで、ワンストップサービスとして利用者目線で利便性が高まる工夫を行っている。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、特別警報発令中は派遣を休止し、電話通訳、オンライン通訳又は翻訳での対応とした。

・医療通訳ボランティア登録者

R4.3月末現在 英語 43 名、中国語 19 名、タガログ語 3 名、韓国語 1 名、ベトナム語 1 名 計 67 名

・コミュニティ通訳ボランティア登録者

R4.3月末現在 英語 52 名、中国語 20 名、タガログ語 6 名、韓国語 1 名、ポルトガル語 1 名、タイ語 1 名 計 81 名（複数言語登録有）

* 令和３年度派遣実績 （ ）は昨年度派遣実績の数字

	種別	東 部	中 部	西 部	計
英 語	医療	(66) 50 件	(2) 14 件	(3) 2 件	(71) 66 件
	コミュニティ	(33) 17 件	(6) 6 件	(0) 0 件	(39) 23 件
中 国 語	医療	(6) 10 件	(4) 10 件	(0) 2 件	(10) 22 件
	コミュニティ	(4) 16 件	(5) 6 件	(0) 1 件	(9) 22 件
ベトナム語	医療	(0) 4 件	(12) 16 件	(1) 1 件	(13) 21 件
	コミュニティ	(0) 1 件	(6) 8 件	(0) 0 件	(6) 10 件
そ の 他	医療	(0) 0 件	(0) 0 件	(0) 2 件	(0) 2 件
	コミュニティ	(1) 0 件	(0) 0 件	(1) 2 件	(2) 2 件
計	医療	(72) 64 件	(18) 40 件	(4) 7 件	(94) 111 件
	コミュニティ	(38) 34 件	(17) 20 件	(1) 3 件	(56) 57 件

「その他」はタガログ語、タイ語、モンゴル語

※派遣休止期間：全県（7/30～9/21（西部は7/19～）、1/24～（西部は1/18～、中部は3/17～3/23は一時解除））。休止期間中、医療通訳111件のうちオンライン及び電話通訳対応15件、コミュニティ通訳57件のうちオンライン通訳対応5件。

（事業報告附属明細書P19～20参照）

エ）防災・災害時支援事業の実施（県補助事業3/4）

大規模災害時に、災害弱者となりやすい外国出身者の不安を取り除き、外国人が防災についての知識を得たり、実際に体験してみることなどでいざというときに備える意識を醸成するため、日本語クラスなどを利用した防災学習の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から休止した。なお、県と協力して市町村、大学、在住外国人等にヒヤリングを行い、外国人が安心して暮らせる環境づくりのための課題を整理するとともに、次年度に向けた協議を行った。

オ）外国人相談窓口・多文化共生サポート事業の実施（県委託事業）

30年度に財団ホームページに構築した多文化共生ポータルサイト（災害情報などの「重要なお知らせ」、「せいかつ安心情報」、「多言語相談フォーム」）を運用するために相談内容の翻訳（回答）や情報提供のほか、令和元年度より外国人受入環境整備交付金を財源とする「鳥取県国際交流財団外国人相談窓口業務」を県より受託し、各事務所に窓口を設けるとともに、相談内容に応じた専門機関等との連携、広報及びサポート体制の強化を図った。なお、昨年度に続き外国人の方で発熱等の症状がある場合や陽性者と接触した可能性があるなどの不安に対応するための外国人向け相談窓口となるなど、ホームページ、SNSと連携した広報を行った。

また、今年度は避難情報の見直しや顕著な大雨に関する情報（線状降水帯の発生情報）の提供開始など防災情報に関する大きな改正があったことを受けて、「やさしい日本語版外国人のための初めての防災ハンドブック」の改訂（第5版・別添）を行った。

○ 「やさしい日本語版 外国人のための初めての防災ハンドブック」

カラー28ページ（一部英語・中国語・タガログ語・ベトナム語併記）500部

○ 「防災携帯カード～いざというときに備えて携帯しましょう」

（一部英語・中国語・タガログ語・ベトナム語併記）500部

（事業報告附属明細書P20～23参照）

カ）私費留学生奨学金の支給（県補助事業10/10）

(1) 私費外国人留学生奨学金制度

県内の大学・大学院・短期大学等に通学する私費留学生11名に月額2万円の奨学援助を行い、奨学生には「国際交流活動ボランティア」として、当財団や地域の国際交流活動への貢献を促している。

鳥取大学7名（中国5、バングラデシュ1、台湾1）

公立鳥取環境大学4名（中国4）

(2) 鳥取県友好提携・交流地域私費外国人留学生奨学金制度

鳥取県の交流地域である韓国江原道、中国吉林省・河北省、ロシア沿海地方、モンゴル中央県、ロシアハバロフスク地方、台湾台中市、米国バーモント州、ジャマイカ ウェストモアランド県出身者を対象に、在県時には地域における国際交流活動への協力を通じて県民の国際理解促進に貢献し、将来、鳥取県と友好交流地域間の架け橋となり得

る人材の育成を図っている。

- ・前期 鳥取大学2名（中国吉林省2）、公立鳥取環境大学1名（中国吉林省1）
- ・後期 鳥取大学1名（中国吉林省1）、公立鳥取環境大学1名（中国吉林省1）

キ）国際交流ボランティア登録制度の運営（自主事業）

日本語教育、ホームステイ、ホストファミリーのボランティア登録制度を運営し、公的機関や民間団体等の要請に応じて活動の場を紹介することで、県民のボランティア活動を推進した。（通訳・翻訳については、医療・コミュニティ通訳ボランティアに移行。交流活動は事業の都度募集する制度の変更を行った。）

分野	活動実績
日本語教育	78名
ホームステイ	0家庭
ホストファミリー	0家庭

ク）地域の多文化共生推進交流会の実施（県補助事業3/4）

新型コロナウイルス感染症拡大の影響から中止した。

ケ）鳥取県多文化共生サポーター制度の運營業務（県委託事業）

鳥取県より委嘱を受けた多文化共生サポーター（鳥取市・TIA、タイム、倉吉市・Toriフレンド Network、米子市・伊藤 信広氏、境港市・大原 浩明氏（R3.7に辞任））の活動に対する研修や情報提供を行うとともに、活動報告の共有、活動費の支給、保険加入等の業務を行った。

○全体研修

日時：令和3年11月20日（土）13:30～14:55

会場：県民ふれあい会館4階大会議室

出席者：多文化共生サポーター（4団体代表及び個人）

TIA 景下会長、タイム 岡村副会長、Tori フレンドNetwork アベ山田副会長、田村事務局長、伊藤氏

内容(1)研修：コロナ禍における在住外国人の状況について

講師 広島出入国在留管理局境港出張所 高山 所長、西森 入国審査官

(2)活動報告及び意見交換

イ 担い手となる人材の育成

ア）医療・コミュニティ通訳ボランティア確保・育成事業の実施（県補助事業3/4）

今後、多文化共生社会を推進していくためには、通訳ボランティアの果たす役割はますます重要であり、ボランティア人材及び人材の質を確保していくため、人材の確保・育成・派遣の三本立てで事業を実施することで、優秀な人材を着実に確保し登録者の拡充に結びつけた。（講座後新規登録者：12名（英語8、中国語3、タガログ語1））

(1) 確保事業（人材確保のための導入研修）

＜入門編＞ 資質・適性のある活動候補者（希望者）を対象に、県内在住の外国出身者の現状理解や今後の活動に役立つトレーニング方法等の研修

日 時	令和3年9月29日（水） 13:30～16:00	令和3年10月2日（土） 13:30～16:00
会 場	倉吉未来中心 セミナールーム7	県民ふれあい会館 大研修室
受講方法	①Zoom オンラインミーティング、②会場でスクリーンに投影されたものを視聴 いずれか都合のいい日時と方法を選択	
内 容	○県内における多文化共生の現状について 講師：アベ山田マリアルイサ氏（財団理事、多文化共生ネットワーク会議委員） ○通訳者に必要なこととは？/通訳トレーニング 講師：澤田 晶子氏（フリーランス通訳・翻訳者、「鳥取おもてなし英語塾」主宰）	
受講者数	①24名、②6名	①23名、②17名

(2) 育成事業（スキルアップ講座、自発的活動促進支援）

＜応用編＞言語及び医療の専門知識、対人援助能力など活動をふまえた資質向上とモチベーションの維持を目的とするスキルアップ研修

日 時	令和3年12月20日（月） 13:30～16:30	令和4年1月22日（土） 13:30～16:30
受講方法	①Zoom オンラインミーティング、 ②会場（県民ふれあい会館 大研修室）でスクリーンに投影されたものを視聴 いずれかを選択	①Zoom オンラインミーティングのみ
内 容	○感染症に関する正しい知識 講師：鳥取看護大学教授 荒川 満枝氏 ○言語別ロールプレイ 講師：株式会社Bricks 通訳	○通訳トレーニング理論と実践 講師：金城学院大学教授 水野 真木子氏 ○言語別ロールプレイ 講師：株式会社Bricks 通訳
受講者数	①21名、②19名	①43名

（受講者アンケート 参考資料P5～13 参照）

＜自発的活動促進支援＞自主勉強会の会場確保や講師の派遣など側面的な支援

東部地区（英語）自主勉強会

場所等：県民ふれあい会館研修室

講師：マリーナ翻訳サービス 代表 シェリー メガリー氏

内容：原則毎月1回（特別警報発令中は中止）テーマを決めて研修・ロールプレイ

参加者数：6回 のべ38名

(3) 派遣事業（医療・コミュニティ通訳ボランティア派遣事業（別掲））

イ) 地域における日本語教育支援者養成講座の実施（県補助事業 3/4）

地域の日本語教育の中核となる人材及び日本語教育ボランティアの初心者向けの研修、及びスキルアップを目的とする研修会を開催した。（全回、オンライン受講又はオンデマンド受講）

<日本語教育支援者成講座>

日程	内容	受講者数
第1回 2月11日（金・祝） 10:00～12:00	<入門編> 「地域の日本語教室と支援者の役割」 講師：御館 久恵氏 （鳥取大学国際交流センター准教授）	36名
第2回 2月11日（金・祝） 13:00～16:00	<ステップアップ編> 「日本語支援の実践～初級レベルの学習者への活動～」 講師：内田 雅子氏（公益社団法人国際日本語普及協会所属日本語教師）	37名
第3回 2月12日（土） 10:00～12:00	<児童生徒日本語支援編> 「『かんじだいすき』を使って」 講師：金 早苗氏（公益社団法人国際日本語普及協会所属日本語教師）	29名
第4回 2月12日（土） 13:00～16:00	<ステップアップ編> 「日本語支援の実践～模擬授業から学ぶ」 講師：内田 雅子氏（公益社団法人国際日本語普及協会所属日本語教師）	33名

<外国にルーツをもつ児童・生徒の日本語支援関係者連絡協議会>

日時：令和4年2月24日（木） 14:00～15:30

場所：オンライン会議

主催：鳥取市教育委員会

議題：日本語支援が必要な外国人児童生徒の現状について、今後の課題について

参加者数：10名

（受講者アンケート 参考資料P14～18 参照）

ウ) 通訳ボランティアスキルアップ講座の実施（県委託事業）

令和3年7月開催の東京オリンピック・パラリンピックのジャマイカ代表団の事前キャンプ実施に向けて、外国人選手等の受入れ支援を行う通訳ボランティア（英語）のスキルアップを図ることとし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、受講者には Zoom オンラインミーティングでの受講または会場での受講のうちいずれかを選んでいただくハイブリッド形式での開催とした。当初、東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプを想定した講座の内容で企画・準備していたが、直前に新型コロナウイルス感染症拡大によって東京オリンピックのジャマイカ選手団による鳥取県での事前キャンプが中止となることが確定したことから、急遽、東京パラリンピックの事前キャンプのみを想定した講座内容に変更して対応した。最終的にはパラリンピックの事前キャンプも中止となったため、実際の活動については調整を要しなかった。

<西部会場>

日時：令和3年6月24日（水）13:30～16:00

(4) 山陰・夢みなと博覧会
記念基金を活用した県
民主体・参加型国際交
流事業

ア 基金による助成事業

県民参加型の地域の国際化に資する交流事業を支援するための助成制度を運営した。
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、民間国際交流・協力事業に対する助成は
オンラインによる交流1件、海外教育旅行に対する助成は申請がなかった。

① 民間国際交流・協力事業助成

事業名	実施主体	実施時期	概 要	参加人 数	助成額 (円)
第11回鳥取 JAZZ2021 × 2021 Detroit Jazz Festival 交流事業	鳥取 JAZZ 実行委員 会	令和3年 9月4日 及び10 月28日	令和元年度より交流 を始めているデトロ イトジャズフェスティ バルとの交流が世界 的なコロナウイルス 蔓延・拡大により令 和2年度は相互の交流 が中止。収束が見通せ ない中で交流を途絶 えさせることなく来 年度の交流につなげ るため、鳥取県の風景 映像を織り込んだメ ッセージ動画を制作 し、9月4日のデトロ イトジャズフェスティ バルメインステー ジ(Web 配信)、10月 28日の JAZZ2021 オー プニングコンサート での上映のほか Youtube チャンネルで のアーカイブ配信を 行った。	1,330 人 ※ワリン サイト・ Youtube 閲覧者 を含む	164,000

イ 基金による県民参加型交流事業

ア) 子どものための異文化理解体験講座の実施

小学生を対象に、多言語による歌やダンス、遊びやゲームの体験などさまざまな国の文化に触れる機会を提供することを目的に実施した。(新型コロナウイルス感染症の拡大による影響を考慮し、10～12月にかけて順次開催)

＜東部＞湖山西小、浜村小、若桜学園小、智頭小、美保小、米里小、岩倉小、鳥取大学
附属特別支援学校小学部、瑞穂小 計9校

＜中部＞船上小、関金小、赤碕小、浦安小 計4校

＜西部＞彦名小、伯仙小、弓ヶ浜小、就将小、淀江小、義方小 計6校

対象児童数 全19校 1,019名

(事業報告附属明細書 P24～26 参照)

イ) 国際交流フェスティバルの実施

広く県民と在住外国人との協働による異文化理解を促進するため、例年は県内三地区で開催されている民間団体主催の国際交流フェスティバルを共催で実施しているが、令和2年度に続き今年度も中部と西部については開催を見送り、東部のみ会場での展示・パフォーマンスと、ホームページ特設サイト(世界の国や交流団体の紹介)の形式で実施した。

＜東部＞第33回タイムフェスティバル

令和3年11月7日(日) 於 とりぎん文化会館第1・2会議室、フリースペース
会場来場者数 433名、特設サイトアクセス数 431件(パフォーマンス出演団体5
団体、会場展示ブース出展団体12団体、特設ページ参加団体8団体)

ウ) 多文化共生ネットワーク連携事業

平成28年度より、外国人コミュニティや社会活動に積極的に参画している在住外国出身者を主たるメンバーとする「多文化共生ネットワーク会議」を組織し、定期的に意見を交換するとともに、必要な取り組みを企画し、協働で実施するなど、外国人住民目線で「必要なこと」を実現していくことに取り組んでいる。「多文化共生ポータルサイト」の翻訳などの運営補助のほか、地域における多文化共生推進のための多文化共生出前講座を実施した。なお、例年実施している協働事業については、対面型のイベントとなるため新型コロナウイルス感染症拡大の影響から中止としたが、県内に在住する外国人の文化を県民に身近に感じてもらう取り組みのパイロット事業として、最も在住者の数の多いベトナムを取り上げた小冊子「ベトナムの豆知識」(別添)を制作した。

＜多文化共生ネットワーク会議＞

全体会議：令和4年2月5日(土) 10:00～11:30 ZOOM オンラインミーティング

議題：昨年度の会議における委員からの意見に対する取り組みについて、長引くコロナ禍の影響で困っていること、今後の協働事業について意見交換

展開：委員からは、在住外国人がコロナ禍にあって日常の行動制限や海外との往来ができないなどの状況で一層ストレスがたまっている状況を憂慮し、リスクを考慮しながら屋外での交流活動などを実現したい、大きなイベントでなくても既存の地域活動に外国人も参加できるようにすることで相互理解を深めたいとの意見があった。意見については関係機関に届けできるものから施策に反映していただくなど財団がつなぎ役を果たす。

＜小冊子「ベトナムの豆知識」制作＞

カラー12ページ 500部

＜多文化共生出前講座＞

主にネットワーク会議委員を講師とする多文化共生出前講座を、要請に応じて派遣した。(2件中止)

	日 時	派遣先・対象	内容及び講師名
1	令和3年4月13日 (火) 15:10～16:10	鳥取社会福祉専門学校	「多文化共生の現状と取り組み」 川口 斐斐氏(財団理事・多文化共生ネットワーク会議委員)
2	令和3年6月10日 (木) 10:30～12:00	県立倉吉総合看護専門学校	「鳥取県で暮らす外国人の現状と支援について考える」 アベ山田マリアルイサ氏(財団理事・多文化共生ネットワーク会議委員)
3	令和3年11月5日 (金) 10:45～12:25	鳥取城北高等学校(看護医療福祉コース)	「日本に暮らす外国人の困りごと(医療・生活・関わり方)について」 アベ山田マリアルイサ氏(財団理事・多文化共生ネットワーク会議委員)
4	令和4年2月15日 (火) 14:30～16:00	鳥取市健康こども部こども家庭課(市内保育園職員)	「外国にルーツのある子どもへの理解、支援について園としてできることは何か」 アベ山田マリアルイサ氏(財団理事・多文化共生ネットワーク会議委員) ※オンライン録画～R4.2.21～28に各園でオンデマンド研修

法人管理 会議等開催状況	<u>評 議 員 会</u> (1) 第33回評議員会（決議の省略による） 令和3年5月31日 議決事項 第1号議案 令和2年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録の承認について 第2号議案 定款の変更について（特別決議） 第3号議案 理事及び監事の選任について 報告事項(1) 令和2年度事業報告及びその附属明細書について 報告事項(2) 令和3年度事業計画の変更及び収支予算の補正について (2) 第34回評議員会（決議の省略による） 令和3年8月27日 議決事項 第1号議案 理事の選任について（亀井 一賀氏） (3) 第35回評議員会（報告の省略による） 令和4年3月31日 議決事項 報告事項 令和4年度事業計画及び収支予算等について <u>理 事 会</u> (1) 第61回理事会（決議の省略による） 令和3年4月1日 議決事項 第1号議案 常務理事（業務執行理事）の選定について 第2号議案 事務局長の解任及び選任について (2) 第62回理事会 令和3年5月14日（金）10:00～11:00 とりぎん文化会館2階 第4会議室 議決事項 第1号議案 令和2年度事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について 第2号議案 令和3年度事業計画の変更及び収支予算の補正について 第3号議案 定時評議員会の招集について 第4号議案 公益財団法人鳥取県国際交流財団医療・コミュニティ通訳ボランティア通訳派遣制度要綱の制定について 第5号議案 公益財団法人鳥取県国際交流財団事務決裁規程の変更について 協議事項 定款の変更案について (3) 第63回理事会（決議の省略による） 令和3年5月24日 議決事項 第1号議案 決議の省略による評議員会の招集について (4) 第64回理事会（決議の省略による） 令和3年5月31日 議決事項 第1号議案 理事長及び副理事長並びに常務理事の選定について
-------------------------	---

	第2号議案 公益財団法人鳥取県国際交流財団就業規程の変更について (5) 第65回理事会（決議の省略による） 令和3年8月19日 議決事項 第1号議案 決議の省略による評議員会の招集について (6) 第66回理事会（決議の省略による） 令和3年8月27日 議決事項 第1号議案 副理事長の選定について (7) 第67回理事会 令和3年11月10日（水）13:25～14:50 とりぎん文化会館2階 第3会議室 議決事項 報告事項(1) 令和3年度職務執行の状況について 報告事項(2) 私費外国人留学生奨学金制度の見直しについて (8) 第68回理事会（決議の省略による） 令和3年12月13日 議決事項 第1号議案 公益財団法人鳥取県国際交流財団就業規程の変更について (9) 第69回理事会（決議の省略による） 令和4年3月29日 議決事項 第1号議案 令和4年度事業計画及び収支予算等について 第2号議案 臨時評議員会（決議の省略による）の招集について 第3号議案 公益財団法人鳥取県国際交流財団就業規程の変更について 第4号議案 公益財団法人鳥取県国際交流財団非常勤職員等就業規程の変更について 報告事項 職務執行状況の報告について
--	--